



第44号

梅苑会報



新校舎
平成26年3月
完成予定

今、新たな歴史を刻む



現在の様子 基礎工事



解体工事

一 昨年の東日本大震災によって校舎の3分の2が被害を受けた本校。とりわけ3・4棟の建物は被害が大きく一切使用出来なくなったため、代わって仮設校舎が設けられた。今現在も仮設校舎では1・2年生の教室、理科の実験室・講義室として使用され、生徒達が日々授業を受けている。一方、3・4棟の校舎は昨年5月上旬から解体工事が始まり、10月中旬に無事解体を終えた。そして本年に入り、いよいよ新校舎の建設が本格的に始まった。

新 校舎の形はL字型で、東西方向の校舎は5階、南北方向は4階建てとなる予定。教室配置については、2・3・4階にそれぞれ学年単位で教室が割り振られ、3学年全ての教室が入ることになっている。1階は化学と生物、5階は物理のそれぞれ実験室、準備室、講義室が入るほか、5階には職員室の分室が配置される。エレベーターや太陽光発電にも対応した造りとなっており、快適な学習環境を整えていく予定だ。

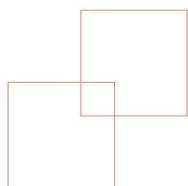


新校舎 完成予想図

各 教室の広さは86平方メートルで、従来の教室の67平方メートルと比較して2割以上広くなる。教室が広くなることに伴い、生徒が使用する机も従来より大きいA版のものが入る。また、これまでクラス教室内にあった生徒用ロッカーを廊下に移してシンプルな空間とするほか、室内の冷暖房が完備されるなど、これまでに以上に生徒達が学習に集中できる環境作りに配慮されている。

新 校舎建設の工期は26年3月14日までの予定。現在は校舎を支える杭打ち工事を終えて基礎工事に入っているが、順調に工事が進めば9月上旬頃までには建物の建設が終わり、その後は内装、電気、設備工事等を行って早期の完成を目指す。

本 年で創立115年を迎える本校。新校舎の完成によって、また新たな福島高校の歴史が刻まれていくことになる。





同窓会会長
川崎眞二
(高校第11回卒)

ごあいさつ

大震災から間もなく二年を過ぎようとしております。福島市は低線量被爆による健康不安を抱きながらも震災前の生活に戻っております。本校の損壊した二棟も昨年夏より工事が始まり、来年春には五階建ての新校舎が完成する予定です。この二年間にわたる仮校舎での授業、工事のため広さ半分になった校庭、河川敷のグラウンドも放射能の影響で屋外運動クラブは不自由な環境の中でも文武両道、立派な成績を残しております。

五月十八日東京グリーンパレスにて関東梅苑会定期総会「ふるさとと共にいきる」をテーマに関東梅苑会、合同同期会に本間稔本校校長、学校から事務局の三名の先生方と出席して参りました。同窓生による合唱団の見事なハーモニイで会が始まり、二つの部屋に分かれる程の出席者で、同窓会長として大変心強く感じました。二つの学年の応援で会を盛り上げたとのことでした。

五月二十七日、第十二回梅苑会親睦ゴルフ大会が開催され、百二名の参加のもと同窓生の親睦を深めることができました。一昨年は震災直後のため中止となりましたが、創立百周年を機に始めた数少ない同窓生の集いを是非復活させたいとの思いで、多くの皆さまのご協力により盛会裡に終了することができました。

九月十三日ハーネル仙台にて、みやぎ梅苑会の定期総会に本間校長はじめ二名の事務局の先生方と共に出席いたしました。中学第四十三回卒の大先輩から高校五十三回卒までの会員の出席のもと、「土井晩翠先生が作曲した校歌と一緒に歌いましょうの会」への参加などの事業計画が承認されました。東邦銀行仙台支店の五名全員が出席され、今後の同窓会の活性化への参考になるとの思いで意を強くしたところです。

十一月三十日、平成二十四年度福高同窓会総会を福島グリーンパレスで開催し、会場が満席となる二百五十名が出席されました。総会に先立ち「ノーベル平和賞マザー・テレサが残したものの」演題で映画監督千葉茂樹氏(高校四回卒)から記念講演を戴きました。出席者一同、ドキュメンタリー「マザー・テレサとその世界」の映像に釘付けとなり、深い感銘を受けました。

関東梅苑会に倣い、はじめて高校二十回卒の皆様の応援を戴きました。これを機に次年度は高校二十一回卒と順送りに応援

年次をお願いすることにしました。途切れていた母校応援団が復活し、OBの指導を受けながら、来年の総会では応援団による校歌斉唱で盛大に会を締めくくりたいと楽しみにしております。

一年間の同窓会活動を振り返り、更なる同窓会の絆を深める

ため、横の繋がりの同期会、縦の繋がりが強化のための職域同窓会の結成、部活動のOB会の協力等お願いしてまいりたいと思っております。

同窓生の皆様のなご一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

福高同窓会総会

平成24年度「福高同窓会総会」が11月30日、午後六時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って千葉茂樹氏(高校第4回卒)による、「ノーベル平和賞マザー・テレサが残したもの」と題した記念講演がありました。千葉氏は現在、日本映画学校校長、SIGNIS JAPAN(日本カトリックメディア協議会)会長を務めるほか、映画監督、シナリオ作家として国内外で活躍されています。講演ではマザー・テレサとの出会いや、日本人として初めてテレサを取材した時のことが語られたほか、場内ではドキュメンタリー映像「マザー・テレサとその世界」が放映され、マザー・テレサのメッセージを通して、人間の命、愛、人生について講演されました。

懇親会では随所で旧交を温め、互いに近況を語る姿が見られ、会は盛況のうち幕を閉じました。



平成25年度 一般会計予算書 24年9月1日~25年8月31日

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,832,120	
(2)入会金	945,000	卒業生 (315名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	卒業生 (315×1,000円) 会員 (約1,500名×2,000円)
(4)雑収入	480	預金利子等
(5)繰入金	0	
合 計	7,092,600	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,880,000	
(1)総会費	500,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	850,000	
(1)会議費	250,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	50,000	振り込み手数料他
(3)交際費	150,000	各回同期会、銭別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	100,000	切手、葉書代
(6)旅 費	150,000	関東梅苑会、みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	
3.梅苑会館運営費	500,000	
維持管理費	500,000	梅苑会館補修費積み立て
4.会員名簿管理費	840,000	平成24年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,022,600	
合 計	7,092,600	

項目間の流用をお認め願います。

平成25年度母校後援会費予算書 24年9月1日~25年8月31日

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	9,171,544	
(2)会費	1,315,000	卒業生 (315名×1,000円) 会員 (約1,000名×1,000円)
(4)雑収入	1,256	利子等
合 計	10,487,800	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	母校への助成
(2)部活動助成	200,000	全国大会出場の一部への激励金
(3)予備費	9,087,800	
合 計	10,487,800	

項目間の流用をお認め願います。

平成25年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書(特別会計)

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,197,431	
(2)積立金	500,000	同窓会一般会計より
(3)雑収入	169	利子等
合 計	1,697,600	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2)次期繰越金	1,697,600	
合 計	1,697,600	

平成24年度県立福島高校同窓会義援金会計報告

1.収入の部 (単位:円)

日付	氏名	義援金額	摘要
H23.7.15	昭和52年度2年9組同級会	30,000	
H23.7.22	関東梅苑会	1,400,000	
H23.7.28	歯科梅門会	200,000	
H23.7.28	市役所梅友会	100,000	
H23.8.20	利息	22	
H24.10.18	関東梅苑会	100,000	
H24.2.18	利息	145	
H24.8.18	利息	146	
合 計		1,830,313	

平成24年度 一般会計決算書 23年9月1日~24年8月31日

収入決算額 7,852,620円
支出決算額 5,020,500円
次年度へ繰越額 2,832,120円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	3,111,443	3,111,443	
(2)入会金	945,000	936,000	卒業生 (312名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	3,614,730	卒業生(312名×1,000円)、 会員(1,295名)
(4)雑収入	557	190,447	預金利子、寄付金等
(5)繰入金	0	0	
合 計	7,372,000	7,852,620	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,880,000	3,169,861	
(1)総会費	500,000	537,151	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	2,356,510	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	276,200	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	1,100,000	510,639	
(1)会議費	250,000	191,534	H23年第2回、H23年第1回役員会
(2)事務諸費	100,000	5,250	振り込み手数料
(3)交際費	200,000	110,000	関東・みやぎ梅苑会参加費
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	250,000	65,255	往復葉書、切手
(6)旅 費	150,000	138,600	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.梅苑会館運営費	500,000	500,000	
維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
4.会員名簿管理費	850,000	840,000	平成23年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,042,000	0	
合 計	7,372,000	5,020,500	

平成24年度 母校後援会費決算書 23年9月1日~24年8月31日

収入決算額 9,800,244円
支出決算額 628,700円
次年度へ繰越額 9,171,544円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	7,834,030	7,834,030	
(2)会費	1,315,000	1,935,000	卒業生 (312名×1,000円) 会員 (895名)
(3)雑収入	970	31,214	預金利子
合 計	9,150,000	9,800,244	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	518,700	生徒会誌「しのぶ草」デジタル化業務費
(2)部活動助成	200,000	110,000	
(3)予備費	7,750,000	0	
合 計	9,150,000	628,700	

平成24年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書(特別会計)

収入決算額 1,197,431円
支出決算額 0円
次年度へ繰越額 1,197,431円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰り越し	697,327	697,327	
(2)積み立て	500,000	500,000	24年度分
(3)雑収入	673	104	預金利息
合 計	1,198,000	1,197,431	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)修繕費	0	0	梅苑会館修繕費
合 計	0	0	

設立20周年記念 平成25年度 定期総会&合同同期会

世代を超えてつながろう!

記念講演

詩人 長田 弘さん(10回卒)

星 一彰・滝本通彦・浅野嘉尚
各先生が出席予定

関東梅苑会だより

日 時 5 / 24(金)
記念講演 18時
定期総会 18時半
合同同期会 19時
会 場 東京グリーンパレス
(東京都千代田区二番町 2-12)



昨年の司会/渡部さん(37回、左から2人目)、八巻さん(64回、右から2人目)、玉根さん(61回、右端)

平成5年の設立以来、定期総会と関東梅苑祭を一年おきに開催しておりますが、今年の総会は、設立20年の節目の年です。当時関東地区には福高の同窓会は全く組織化されてなく、志のある数人の同窓生が、かつての同級生やクラブ活動の先輩後輩のつながりを辿り、少しずつ仲間間の輪を広げ、現在の関東梅苑会の礎を築きました。

それ以来、毎年200名の卒業生が年に一度の同窓会に参加し、旧交を温める盛大な会が受け継がれてきました。それは正に初代会長・中学43回の阿達哲雄さん(故人)、そして丹治清吉さん(高1回卒)、神津知男さん(高10回)、小松恭三さん(高14回)の歴代会長のリーダーシップの下、各学年幹事さんの取りまとめのご努力や一人ひとりの同窓生の皆様のご理解とご協力があったるものです。数年前から共学化一期生(高58回)の女性も定期総会や関東梅苑祭に参加し、今では女子卒業生による司会者が恒例となりました。一世代前の同窓生にとっては、福高IIバンカラのイメージしかないと思いますが、母校だけではなく、関東梅苑会の中にもすこしずつ華やかさが

垣間見られるようになりました。同窓会にまだ参加されていない方も、どうぞ一度ご参加ください。震災と原発の影響でふるさと福島の人口が減っていると聞き大変残念に思います。母校の現役生をバックアップするためにも、先輩の方々が脈々とつないできた同窓会の輪を引き継ぎ、一層広げていきましょう。

さて、今年の総会に向けて、昨年末より実行委員会(当番幹事・高18回・28回・38回・48回)で討議を重ね、当日のプログラムは読売新聞「こどもの詩」に連載されている詩人・長田弘さん(高10回)の記念講演等、次の内容を予定しています。

- 【一部・記念講演】
18時
詩人・長田弘さん(高10回)
- 【二部・定期総会】
18時30分
総会議事
(活動報告・決算など)
- 20周年記念功労者表彰
- 【三部・合同同期会】
19時
母校恩師をお招きして
(星一彰先生、滝本通彦先生、浅野嘉尚先生)
懇親会など

【長田 弘 さん osada hiroshi】

福島市生まれ。高校10回卒。早稲田大学第一文学部在学中から詩を発表して注目され、1965年の第二詩集『われら新鮮な旅人』によって時代を代表する詩人のひとりとなった。1971年から72年にかけて、米国アイオワ大学国際創作プログラムに客員詩人として招聘された。1982年には『私の二十世紀書店』で毎日出版文化賞を受賞、1990年に富田碎花賞、翌年に路傍の石文学賞を受賞、その後も桑原武夫学芸賞、講談社出版文化賞などの受賞を重ねた。

代表作とされる1984年の詩集『深呼吸の必要』と1987年の詩集『食卓二期会』は、今日まで多くの読者に読まれるロングセラーとなっている。また、詩『世界は冊の本』や詩『最初の質問』は、教科書でおぼえた名詩として広く知られる。2009年の詩集『幸いなるかな本を読む人』で詩歌文学館賞、2010年には詩集『世界はうつくしいと』で三好達治賞、東日本大震災後には福島に捧げる詩編を収める詩集『詩の樹の下で』を刊行するなど、大きな足跡を残している。

この2月、1995年よりNHKテレビ「視点論点」で語った17年を集めた、『なつかしい時間』(岩波新書)が出版された。

「招待の先生の横顔」

【星一彰先生】

東京教育大学農学部（現・筑波大学生物資源学類）卒、会津高校、農業短大を経て、福高には昭和48年～55年に在籍し、生物科指導の他、生物部とスキー部を担当。

3年生の担任…28回（8組）、31回（4組）

《記憶に残る思い出》

- 国体スキー（教員の部）のクロスカントリー15Kで2回入賞、生物部での日本学生科学賞（県審査）で優秀賞5回
- 福高創立100周年の時、名物先生16人の一人として新聞で紹介された。
- 《自身にとって福高とは》
- 文武両道（部活動）について追求できた理想的な県立高校

《現在のこと》

- 福島県自然保護協会会長、福島県環境アドバイザー、環境省環境カウンセラー、林野庁固有林野管理審議会委員、尾瀬保護財団評議員など活躍中。

【滝本通彦先生】

青山学院大学文学部卒、荒川区立第七中、福島西女子高を経て、福高には昭和40年～52年と昭和57年～平成3年に在籍し、英語科指導の他、文芸部や演劇部、ボート部を担当。

3年生の担任…25回（3組）、28回（4組）、38回（2組）、40回（2組）、43回（7組）

《記憶に残る思い出》

- 昭和40年の2年生の担任では、55名在籍、優秀な学生が多かった。
- 梅苑祭の異常な盛り上がり
- 《自身にとって福高とは》

- 教員生活38年のうち合計21年間勤務し、生徒の皆さんに教えてもらいました。今日の自分があるのは福高のお蔭です。

《現在のこと》

- 尚志予備校で週3講座を担当している。
- 100坪程の畑で菜園を楽しんでいます。
- が入試の英文を楽しく読んでいます。

【浅野嘉尚先生】

福島大学教育学部卒、南会津高校、安積高校などを経て、福高には平成2年～11年に在籍し、数学科指導の他、柔道部を担当。3年生の担任…45回（11組）、48回（11組）、51回（1組）

《記憶に残る思い出》

- 平成3年修学旅行「あかさの香り」熱唱と530名の集合写真
- 平成7年福島国体・砂子田校長の「撒」により剣道部の全国優勝はじめ各部活動の大活躍
- 平成10年創立100周年記念式典に向けた一教師の訴え「…福高には県下一優秀な生徒がいる、諸君が宝である…100周年を祝おう」「そうであらう」

《自身にとって福高とは》

「愛と青春の旅立ち」の高校 The days of our life「より優秀な者はより人間的であれ」に育てくれた日本一の生徒集団。

《現在のこと》

- 平和な社会を次世代に受け継ぎたい。卒業生からの酒席の誘いが一番です。
- 「人生感嘆気 功名復誰論」



同窓会の締めは、応援歌「あかざの香り」を全員で謳う。リードは第90代応援団長の佐久間さん（40回）

在京OBによる男声合唱が東京（3月）、福島（7月）で第3回演奏会

福島高校合唱団の在京OBによる男声合唱「コール・マルシユナー」が3月に東京、7月に福島で第3回演奏会を開く。

福島公演は、東日本大震災からの復興を願って開かれた平成23年7月以来、2年ぶりの「ふるさと公演」となる。

コール・マルシユナーは、故三浦とみ子先生指導の下、昭和26年より4年連続東北代表として全日本合唱コンクール全国大会で活躍した福島高校合唱団第一期黄金時代の在京OBが中心となり、平成11年に旗揚げ。毎年、関東梅苑会総会の席上でも歌声を披露しており、設立10年目の平成20年に東京で第1回演奏会、平成21年には福島市で念願の「ふるさと公演」を実現している。

その後も平成22年10月の第2回東京公演など積極的な演奏活動を続けていたが、平成23年4月の第2回福島演奏会の直前に起きたのが東日本大震災。その影響でひとまずは延期となったものの、3カ月後の7月にチャリティー（収益の一部を福島市に寄付）により開催。福島市の心をいやし、和らげ、勇気づける歌声が響いた。

「メンバーは現在19名で、平均年齢75歳。多くの皆様から『70歳台とはとても思えない若々しい声』と好評をいただき、全員、意気軒昂、大いに熟年パワーを発揮しています」とは下田博郎さん（高校8回卒）。

「親しみのある曲でお客様にもっと楽しんでほしい」との思いから、今初めて若手音楽家の武石頼子さん（共学1期・高校58回卒）がピアノ伴奏に参加。福島演奏会では、前回に引き続き福島高校合唱団の現役の皆さんも特別出演予定で福高校歌の合唱も楽しみだ。下田さんは「若手の皆さんと我々の世代を超えたコラボレーションにもご期待ください」と話している。



前回の福島演奏会
日時：平成23年7月2日
場所：福島市音楽堂大ホール

【東京演奏会】

日時 平成25年3月31日（日）14時開演

場所 渋谷区文化総合センター大和田さくらホール

チケット 1500円（全席自由）

演奏曲目 清水脩作品集、黒人霊歌、愛唱歌集Ⅰ（日本のポピュラーソング）、愛唱歌集Ⅱ（ドイツ、オーストリアの大作曲家の小品）

連絡先 下田博郎
FAX 03-3465-5907
E-mail
h.shimoda.wagner36@nifty.com

【福島演奏会】

日時 平成25年7月6日（土）14時開演

場所 福島市音楽堂大ホール

賛助出演 福島メール・ハーモニー

特別出演 福島高校合唱団

チケット 1000円（全席自由）

演奏曲目 清水脩作品集、黒人霊歌、愛唱歌集
連絡先 小野俊一
FAX 047-366-7627
E-mail
syuny1939@camel.plala.or.jp

花咲け！ 未来の音楽家たち コンサート活動で ふるさとに勇気を

共学1期生(高校58回卒)グループ「フィオーレ」

「音楽を通じて『ふるさと福島』の力になりたい」。共学1期生(高校58回卒)の若手音楽家グループ「フィオーレ(Fioré)」が東日本大震災後のふるさと子どもたちを勇気づけようとコンサートを開いた。メンバーは、武石頼子さん(渡利中・東京音大卒・ピアノ)、二瓶舞子さん(福島一中・東京芸大卒・ソプラノ)、宮西一弘さん(信陵中・国立音大卒、テノール)、工藤保香さん(附属中・国立音大卒・ピアノ)、鈴木香奈子さん(渡利中・東京学芸大卒・ピアノ)、野内康宏さん(岳陽中・北海道教育大卒・フルート)、阿部徳博さん(松陵中・愛知芸大卒・打楽器)の同期の仲間たち。昨年8月に東京と福島で『福島の子どもたちに贈る』チャリティーコンサート『』を開くなど、ふるさと復興再生に向けた音楽活動にも取り組んでいる。

● 福高校歌がグループ名の由来

グループ名の「フィオーレ」はイタリア語で「花咲く」という意味で、福高校歌の(花咲きみのりて 世のため立たむ)の一節にちなむ。一人ひとりが音楽家として「花咲く」とへの決意と夢を込めたという。そもそも活動のきっかけは高校3年生の「梅苑祭」。1日限定のユニット「6つの芽」というグループ名でコンサートを開いた。その後、メンバーはそれぞれの大学で音楽の道を志すが、ふるさとへの思いはかえって強まる。「音楽を志す仲間でも何かできないか」。自然にメンバーが集まり、平成20年に「再結成」を果たした。

「卒業後もまた集まろう」と「再会」を約束したのが平成23年3月の福島公演。練習を重ねて、チラシも刷り上がり、あとは本番を待つだけ。そんな矢先、大震災が襲った。やむなく公演

中止を決めたメンバーにとって、ふるさとの深刻な状況はつらいものだった。新聞やテレビで福島のことを報じられるたびに心が痛んだ。「1年以内に福島でコンサートを開こう」。メンバーの誰もが誓い合った。翌年3月に友情出演にささえられて、夢はかなう。念願の福島公演は観客とステージが一体となり、ふるさとの復興を願う気持ちに包まれた。



チャリティーコンサート 日時：平成 24年8月12日 会場：福島テルサFTホール

● 夢に挑戦し続けることが大切

メンバーを代表して、武石さん、二瓶さんにお話を伺った。「福島の子どもたちに震災によって夢をあきらめてほしくなかった。自分自身周囲の環境や理解のおかげで夢を追い続けて来られたので、微力でも夢の後押しをしたかった。子どもたちには悔いのないよう、自分のやりたいことに挑戦し続けてほしい」。震災後のコンサートの目的について、二瓶さんはこう説明する。

武石さんも「震災で傷ついた福島の子どもたちの心を少しでもいやすために、音楽で力になりたい」と企画したコンサートでした。でも会場の皆さんから「音楽を続けられてよかったね」との言葉をいただくなど、逆に自分たちが励まされた」と語る。



武石頼子さん(左)と二瓶舞子さん(右)

昨年8月には福島と東京でチャリティー公演を開催した。東京では『ふるさとの四季——日本の唱歌メドレー』で、「春の小川」「ふるさと」などを披露。「『ふるさと』の美しい自然や人情を音楽で感じてほしいとの思いから選んだプログラム。小さな会場なのでお客様が涙を浮かべながら、口ずさんでくださるのが見えた。うれしかった」(二瓶さん)。

そんな2人の夢は、「フィオーレ」としての音楽活動をこれからも息長く続けていくこと。「クラシック音楽とは異なる、様々な芸術分野に取り組む方々とのジャンルや世代を超えたコラボレーションを通じて、新しい表現の可能性もさぐってみたい。これまでやこれからの経験全てを懸けて福島と子どもたちに還元できればと思っっています」(武石さん)。夢への挑戦は続く。

「フィオーレ」のコンサートは今年4月27日に東京・駒込のソフィアザールで開く。武石さん、二瓶さん、宮西さんと後輩の加藤夢生さん(高校63回卒)による歌とピアノのサロンコンサートを予定している。今年秋以降、福島でのコンサートも計画中という。

みやぎ梅苑会だより

広めよう！

親睦と交流の輪を

みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

みやぎ梅苑会は、9月13日仙台市青葉区のハーネル仙台で平成24年度定時総会・懇親会を開催しました。会には、歌川和夫会長はじめ宮城県在住の会員約50名、本間稔校長、阿久津順二父母の会副会長、川崎眞二同窓会長、今関達也同窓会事務局長、二階堂晋一関東梅苑会副会長、油井富雄同広報部長の来賓をお迎えして開催しました。

橋本俊一理事（高21回卒）の司会で、始めに東日本大震災の犠牲者や物故会員に黙祷を捧げました。

次いで、歌川会長（高17回卒）は「同窓会の絆は、弱そうでも強いものだ。我々役員は一層気を引き締めて、会員相互の交流を深めるよう回の発展に寄与したい」と身を引き締めて挨拶されました。

来賓挨拶で、川崎会長（高11回卒）は「同窓生の福島市長・飯館村長は、福島原発の事故以

来昼夜を問わず住民と国・県との対応に追われている。科学者・行政等に対する不信が募る中、時間だけが過ぎ去っていく」と子供達の健康問題・避難者の生活環境問題等の現況を訴え、本間校長は「今年から校舎を2棟解体し、26年3月完成を目途に工事を開始しました。この間1・2年生は仮校舎で授業を受けているが、『自主・自立・文武両道』をモットーに励んでいる」と挨拶されました。

総会では、平成23年度事業・会計報告並びに監査報告を執行部提案通り承認し、議事に入り、24年度事業計画（案）・同予算（案）を満場一致で可決しました。



次に、森川利夫副会長（高6回卒）の懇親会開催の挨拶、今野健一顧問（高5回卒）の乾杯音頭で会員相互の交流が交わされました。懇親会の中で、二階堂副会長は「関東梅苑会の会報を発行するとともに、若者の会員発掘に努めている」と活動内容を報告し、油井広報部長は「梅苑会報をカラーにし、関東梅苑会のホームページをより充実し、多くの会員にアクセスして頂けるよう工夫していきたい」と抱負を語った。（しかし、油井氏は二日後の15日逝去されました。ご冥福をお祈りします）。

その後、東邦銀行の高野努氏（高38回卒）「福島の食の安全」、税理士の竹石淳一氏（高39回卒）「飯坂温泉ヘラヴコー」、関口哲夫氏（高20回卒）「エネルギー問題の所在」、鈴

木正美氏（高28回卒）「ロンドンに震災祈念の公園を」など沢山の方が登壇し、現状と未来を語り合いました。

合唱クラブOBの駒場悟氏（高32回卒）の指揮で、全員で校歌を高らかに合唱し、盛り上がったところで、佐藤隆副会長（高15回卒）から「来年も会いましょう」の閉会の辞でお開きとなり、「福島高校栄えよ永く」を復唱しながら家路につきました。

声高らかに 「世のため立たむ」

東日本大震災で 大津波から無謀避難記

みやぎ梅苑会は、「土井晩翠先生が作詞した校歌をいっしょに歌いましょうの会」に参加し、「少人数ながら見事な声量と奥行きのあるハーモニーを響かせ、会場から大きな拍手を受けた」（10月24日福島民報）と報じられた。

第6回「歌う会」は、土井晩翠先生の母校である仙台市立立町小学校で、県内外から15校が参加し、10月21日開催された。冒頭「歌う会」実行委員長西沢啓文氏は「土井先生没後50周年を偲んで開催し、その後教科

書から『荒城の月』が消えたこともあり、先生の創造力を醸したる校歌を永く歌い継ぎたいと思ひ、この会を開催している」との挨拶がありました。

今回は、仙台市内の小・中学校5校、同窓会5校に、高知（2校）・愛知・群馬・山梨から5校の同窓生が参加し、学校紹介、土井先生と母校の関わりや逸話など披露しながら校歌を合唱しました。

みやぎ梅苑会は、歌川和夫会長はじめ合唱部OBを主体とする7名の精鋭（？）が事前の練習を1回行っただけで本番に登壇し、校歌1・2・5番を「土井先生の素晴らしい歌詞をかみしめて歌いました」（新聞記者のインタビューで会長）。

校歌披露後、山梨県立谷村高等学校同窓生は、立町小学校校庭に桜の木を記念植樹し、更にこの校庭の土を持ち帰って、同校の校庭にも植樹をするそうです。





福島高等学校長
本間 稔

原発事故からの 復興目指して

同窓会員の皆さまには、ご健勝にてご活躍のことと存じます。また、日頃より母校のためにご支援とご協力をいただいておりますことに対し心より御礼申し上げます。

震災、原発事故から二年の歳月が過ぎ、また春が巡ってきました。梅の花はいつもの春と同じように咲きほこっています。しかし災害の傷跡は、依然として心の中に重くのしかかりその閉塞感はいかんともしがたいものがあります。その中にある私たち教職員は、今育てている

福高生を、福島の復興の担い手として、福島の文化の発展の担い手として、そして福島高校の伝統の担い手として育て上げていかなければならないという重き使命を日々感じ、取り組んでおります。

さて、本校は、一、二年生が仮設校舎での学校生活を強いられておりますが、二十六年三月の校舎竣工に向け今急ピッチで建設が進められております。完成の暁には全学年を収容できる

五階建ての立派な校舎となりま

す。現在、不自由な環境ではあ

りますが、その不自由さをもの

ともせず生徒は勉学に部活動に

頑張っております。

平成二十三年卒業生の大学

進学状況は、別記の通り、県立

医大医学部十七名というすばら

しい結果を残したものの、京大

二名、東北大学十七名など国公

立百四十三名、そして慶応四名、

早稲田十五名など主な私立大

二百二十九名という結果でした。

過年度の卒業生も含め東大合格

者が皆無であったことから、マ

スコミをはじめ各方面でも課題

として取り上げられ、本校の置

かれています立場や使命について

改めて認識させられた思いがし

ました。この轍を再度踏むこと

がないよう、本県の教育をリー

ドする学校としての使命を果た

すべく職員が一丸となって取り

組んでいこうと考えています。

その中核となるのが、文部科

学省から指定を受けていたスー

パーサイエンスハイスクール

(SSH)事業であり、本年度

新たに五年間の再指定を受けま

した。研究開発課題として「震

災・原発被災地として国内外に

認知された福島の地域性と五年

間のSSH研究開発を融合し、

災害復興を可能とする領域横断

的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」を掲げ五つのテーマにおいて同窓の皆さまのご支援をいただきながら研究開発を進めております。また、今年度新たに福島の科学の中核拠点である「コアSSH」に指定され県内の各進学校を束ね連携体制の構築をめざし活動を始めております。これが本校教育の大きな柱になりつつあると感じております。

部活動においても本校生は大いにその力を発揮しております。水泳部、アーチェリー部、テニス部が北信越で開催された全国インターハイに、加えて陸上部が岐阜県で行われた国体に出場し、特に陸上部の伊藤文晃君が少年男子走り幅跳びで四位に入賞するなどすばらしい成績を

収めることができました。また、囲碁部、将棋部、書道同好会、梅章委員会、チアリーダー部が富山での全国高総文祭に出場し、特に将棋部が団体五位に輝きました。さらに、なんといっても応援団の復活があげられます。一年生二名が同窓の皆さまのご指導のもと練習に励んでおり、次年度にはその成果を披露することができるようになると思います。このように福高生は、文武両面にわたり十分にその力を発揮しています。しかし、私は、福高も福高生も今がまさに従来の枠から脱却し、新たなステージを目指すべき時であると考えています。伝統は守るために有るのではなく、さらなる進歩のために有るものなのです。来る平成二十五年度は、新たな一歩に向けた取組みを図っていかねばならないと考えています。今後とも、母校発展のためこれまで以上のご支援をいただければ幸いです。

部活動成績

運動部

テニス部

- 全日本ジュニアテニス選手権東北大会 シングルス3位

アーチェリー部

- 福島県高等学校体育大会 男子・女子団体2位 個人3位
- 東北総合体育大会 少年男子5位

陸上部

- 福島県高等学校体育大会 3位 (4×100m)
- 福島県総合体育大会 1位 (走り幅跳び) 3位 (棒高跳び)
- 国民体育大会 4位 (走り幅跳び)

水泳部

- 福島県高等学校体育大会 1位 (200m個人メドレー) 1位 (100mバタフライ)

文化部

囲碁部

- 全国高校囲碁選手権大会福島県大会 男子団体優勝 男子個人優勝

将棋部

- 全国高等学校総合文化祭将棋部門 全国大会 男子団体5位

梅章委員会

- 全国高等学校総合文化祭新聞部門 優秀賞

進学展望

進路希望の動向

平成二十五年三月の卒業生は、本校共学化以後、第八期の卒業生となる。

「昨年三月十日以降の東日本大震災と原発事故の影響で、比較的被害の少なかった第一棟の教室は昨年引き続き三年生の教室として確保できたものの、二年生は今年度も、本校舎東側のアスファルトコートに建設された仮設校舎で、現在にいたるまでさまざまな制約の中で、の学校生活を送っている。(なお、新校舎の完成は平成二十六年三月、生徒が実際に使用するのには同年四月からである。)

震災と原発事故、それともなう放射線被害と除染、さらには三年ぶりの政権交代など今年度も国内外の政治・経済・社会情勢が目まぐるしく変化し続け、「福島」と本校を取り巻く環境も大きく動いた年だったが、本校生の学習に対する真摯な取り組みと進路希望の実現に向けての継続的な努力は例年以上に熱を帯びていた。

共学化以降、本校生徒の学習成績は年度による変動はやや見受けられるものの、確実に向上してきており、その成果を進学実績に着実に結びつけてきている。「国公立大学志向」「理高文低(大学や学部の人気)」という全国的な進学希望の流れは本校生においても顕著で、医学部及び医科大学をはじめとして、看護学

部や保健学科あるいは薬学部を中心に理科系の大学・学部を志望する生徒が男女を問わず増えてきている。この数年全国的に志願者が減少していた歯学部も回復傾向にあり、教育学部も含めて将来の職業選択に直結するような資格取得を前提とする実学志向は層強まっており、今後しばらくはこの傾向が続くものとみられる。

一方で、東京大学文科I類において十三年ぶりに二段階選抜が実施されなかったことに象徴されるように、法学部や経済学部を中心に文化系の学部を志望する生徒は全国的に減少してきており、この傾向はここ数年本校生においても現れてきている。

また、「国公立大学・地元志向」「安全志向」の傾向も年々強まってきている。昨年度、第二段階選抜の最低点が七七〇点とハイレベルとなった東京大学理科I類においては、今年はセンター試験が難化したこともあり、ボーダーラインが約二〇〇点ほど二気に低下し、あるいは第二段階選抜を実施しなかった前述の文科I類から、文科II類やIII類に変更する受験生が増えたため倍率が上昇するなど、前年度や直前の全国的な動向を正確に把握したうえで、慎重な出願が目立つようになってきた。

入試出願状況 (現役の延べ数)

項	大学名	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年
国公立大	北海道大	12	32	9	11
	岩手大	10	8	5	8
	東北大	67	69	87	72
	山形大	17	15	20	18
	福島大	48	66	61	85
	茨城大	5	10	9	5
	筑波大	32	15	31	16
	宇都宮大	14	2	6	7
	埼玉大	20	24	26	26
	千葉大	36	34	31	24
	東京大	22	5	12	7
	東京外語大	2	6	9	6
	東京工業大	4	6	11	3
	一橋大	8	2	8	1
	横浜国立大	8	13	22	16
	私立大	新潟大	24	28	21
京都大		10	3	5	2
その他		68	63	60	45
県立医科大		48	66	42	61
県立会津大		3	1	0	1
高崎経済大		3	2	2	7
その他		31	36	32	27
東北学院大		13	20	4	12
青山学院大		31	34	44	35
慶応義塾大		20	22	28	24
上智大		5	7	6	5
中央大		56	61	52	57
東京理科大		20	31	32	40
日本大		24	20	14	17
法政大	60	48	42	40	
明治大	93	118	90	77	
立教大	61	37	55	29	
早稲田大	67	79	77	67	
その他	262	282	213	211	
国立大学合計	407	401	433	376	
公立大学合計	85	105	76	96	
私立大学合計	712	759	657	614	
総計	1,204	1,265	1,166	1,086	

大学合格者数 (過年度卒を含む)

項		平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	
合格者数	国公立大	北海道大	5	4	3	6
		岩手大	8	0	3	1
		東北大	25	41	33	47
		山形大	9	11	10	6
		福島大	24	33	35	21
		茨城大	2	1	2	3
		筑波大	6	10	7	12
		宇都宮大	2	3	4	7
		埼玉大	12	11	11	6
		千葉大	15	13	5	10
		東京大	0	6	4	4
		東京外語大	2	1	0	3
		東京工業大	1	6	3	0
		一橋大	1	2	2	0
		横浜国立大	6	7	4	0
		私立大	新潟大	14	8	10
	京都大		2	5	1	2
	その他		17	16	9	19
	県立医科大		27	15	16	17
	高崎経済大	1	0	2	0	
その他	15	9	12	6		
小計	194	202	194	178		
就	慶応大	6	13	10	6	
	早稲田大	22	44	41	36	
	中央大	38	34	33	39	
	明治大	55	44	37	31	
	法政大	18	19	28	26	
	立教大	19	22	10	21	
	日本大	8	13	13	10	
	東北学院大	20	7	10	6	
	同志社大	2	6	2	0	
	その他	235	134	214	214	
	小計	423	336	398	389	
準大	1	2	3	1		
短大	2	3	5	2		
各種学校	0	1	3	0		
合計	620	6	603	567		
就職	0	2	1	0		

寄贈図書紹介 (平成24年1月~12月)

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
24・02・24	札幌農学校 復刻版	蝦名賢造	北海道大学東京同窓会	24・07・31	トライアウトtryout	藤岡陽子	福島職員・佐藤恵治
24・02・24	めざすは貧困なき世界	高柳彰夫	フェリス学院大学	24・07・31	史記 1-4	北方謙三	福島職員・赤沼健一
24・02・24	土着と反逆―吉野せいひの文学について	杉山武子	著者	24・07・31	血涙 上、下	北方謙三	福島職員・赤沼健一
24・02・24	原発のツツ	小山裕章	カメヤマ・キャンドル	24・07・31	橋家将 上、下	北方謙三	福島職員・赤沼健一
24・02・24	新通史日本の科学技術 第1-2巻、第4巻	吉岡齊 他	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	未来を翔る	フェリス学院大学	フェリス学院大学
24・02・24	震災復興とTPPを語る	鈴木宣弘	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	福島から伝えたいこと	福島県立高等学校教職員組合	福島職員・高橋美代子
24・02・24	高木仁三郎著作集 1-3	高木仁三郎	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	福島から伝えたいこと	福島県立高等学校教職員組合	福島職員・高橋美代子
24・02・24	超円高で震災日本は3年後に復活する	宇野大介	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	歴史学の可能性	東田雅博	金沢大学
24・02・24	隠される原子力・各の真実	小出裕章	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	季刊 東北学 第二十一号、二十二号	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
24・02・24	震災大不況で日本何が起るのか	宮崎正弘	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	日本記者クラブ	日本記者クラブ	星 浩 (福高26回卒)
24・02・24	原発の死傷と活動	村岡至	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	「東日本大震災」における滋賀県の支援活動	滋賀県	滋賀県
24・02・24	東日本大震災復興への提言	伊藤滋	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	東日本大震災の総括、記憶	東邦銀行	東邦銀行
24・02・24	「脱原発」成長論	金子勝	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	2011人間力大賞第年鑑	日本青年会議所	日本青年会議所
24・02・24	原発と原爆	川村淳	カメヤマ・キャンドル	24・09・28	糸式 ITOSHIMI	糸式制作委員会	有限会社 voque ting
24・02・24	知りたくないけれど、知っておかねばならない原発の真実	小出裕章	カメヤマ・キャンドル	24・10・31	やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識	田嶋晴明	ガーカウスタワープロジェクト
24・02・24	原発をつくった私たちが、原発に反対する理由	菊池洋一	カメヤマ・キャンドル	24・10・31	アيسコア 地球環境のタイムカプセル	藤井理行、本山秀明	国産地研究所
24・02・24	原発とプルトニウム	常石敬一	カメヤマ・キャンドル	24・10・31	彼の地へ 3.11からのメッセージ	高染佳子	三宝出版
24・02・24	テプシの真実	渡辺喜美	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	福島の美術館で何がおこっていたのか	黒川創/編	福島職員・神田亮一
24・02・24	原発の闇を暴く	広瀬隆	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	スパンサー 基礎化学 上、下、演習編	スパンサー	化学オリンピック支援委員会
24・02・24	福島に生きる	玄侑宗久	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	いのちより大切なもの	星野富弘	いのちのことば社
24・02・24	東日本大震災復興への地域戦略	中村研二	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	純粋理性批判 1-7	カント	学校図書館げんきプロジェクト
24・02・24	首都直下地震(震度7)	拓植久慶	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	道徳形而上学的基础づけ	カント	学校図書館げんきプロジェクト
24・02・24	原発はいらない	小出裕章	カメヤマ・キャンドル	24・11・14	ツアラトゥストラ 上、下	ニーチェ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	毎月新聞	佐藤雅彦	福島職員・山岸博一	24・11・14	詐欺師フェリス・クルルの告白 上、下	マン	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	魂にふれる	若松英輔	著者寄贈	24・11・14	ドストエフスキーと父親殺し、不気味なもの	フロイト	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	総井啓明作品集	総井啓明	杉田淳(著者の妹)	24・11・14	失脚、巫女の死 デュレンマ特作選	デュレンマ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	総井啓明作品集	総井啓明	杉田淳(著者の妹)	24・11・14	プラス・クーパーの死後の回想	マーシャド・ジ・	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	文系?理系?	福島職員・高橋純子	著者寄贈	24・11・14	酒樓にて、非攻	魯迅	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	戦艦なき時代を築く	ロメオ・ダレール	発行所寄贈	24・11・14	梁塵秘抄	後白河法皇	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	外交 Vol.06	外務省	外務省	24・11・14	プラトラス あるソフィストとの対話	プラトン	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	3・11と1・17 大震災	小林正典	著者寄贈	24・11・14	メノン 徳について	プラトン	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	マンガでわかる電池	藤原和弘、佐藤祐一	オーム社	24・11・14	罪と罰 1-3	ドストエフスキー	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	捜査官	清水勇男	初又日報(福島地検検事)	24・11・14	貧しき人々	ドストエフスキー	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	熱血検事 駆ける!	五島幸雄	初又日報(福島地検検事)	24・11・14	悪霊 1-3、別巻	ドストエフスキー	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	大宇宙	福井康雄	名古屋大学	24・11・14	ワーニ伯父さん、三姉妹	デュエホフ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	ウェブらしさを考える	大向一輝、池谷瑞穂	国立情報学研究所	24・11・14	カメラ・オブスクラ	パノコフ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	IDの秘密	佐藤一郎	国立情報学研究所	24・11・14	ニーチェからスターリンへ	ロトツキ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	つなげていきたい野嶋洋光の二十四節気の食	野嶋洋光	3-PA-CO文化教育事業財団	24・11・14	コサック	トルストイ	学校図書館げんきプロジェクト
24・05・31	第35回全国高等学校総合文化祭大会記録集	福島県	福島県	24・11・14	ムジョウ・アンチピリンの宣言	ツララ	学校図書館げんきプロジェクト
24・06・29	新聞は大震災を正しく伝えたか	花田達郎	早稲田大学	24・11・14	夜間飛行	サン・デグジュベリ	学校図書館げんきプロジェクト
24・06・29	復興政策をめぐる「正」と「善」	鈴木興太郎	早稲田大学	24・12・28	極限の雪原を越えて	木崎甲子郎	国立極地研究所
24・06・29	3・11津波で何が起きたか	柴山知也	早稲田大学	24・12・28	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野圭吾	福島県立工業高等学校
24・06・29	笑顔をあげよう	矢野 都	著者	24・12・28	新島八重	同志社女子大学	同志社女子大学
24・06・29	太陽エネルギーがひらく未来	東京理科大学	東京理科大学	24・12・28	青春レボリューション	大島研二	川上崇二(著者)福高24回卒
24・06・29	3・11・東日本大震災レポート	福島県建設業協会	福島県建設業協会	24・12・28	こんにちは地球家族	千葉茂樹	千葉茂樹(福高4回卒)
24・06・29	数学の嫌いな人のための数学	福高職員	福高職員	24・12・28	マザー・テレサとその世界	千葉茂樹	千葉茂樹(福高4回卒)
24・06・29	万葉集みじかものがたり	中村博	著者	24・12・28	MANJIRO ジョン万次郎	マツカリ	千葉茂樹(福高4回卒)
24・06・29	歴史を学ぶ 歴史に学ぶ	佛教大学歴史学部	佛教大学	24・12・28	2011.3.11東日本大震災と建築の記録	福島	福島県建築士事務所協会
24・06・29	タイムズ世界地図帳 第12版	雄松堂書店	雄松堂書店	24・12・28	早稲田大学ブックレット「震災後」に考える 1-26	早稲田大学	早稲田大学
24・07・31	スマホで世界をねらうために知っておきたい3つのこと	佐藤航陽	福島高校卒業生	24・12・28	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会	日本生物工学会

(その他多数の寄贈図書をいただきました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成24年度 同窓会役員

会長	川崎 真二	高11回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	小松 恭三	高14回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	渡邊 健寿	高17回
副会長	歌川 和夫	高17回
副会長	片平 憲市	高19回
常任理事	佐藤 聡男	高11回
常任理事	齋藤 登	高12回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	二階堂 晋一	高16回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	山岸 清	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回

理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	今野 金銀	高15回
理事	池田 正昭	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	網代 智盛	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	尾形 裕彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	八子 直樹	高31回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回

平成24年度 同窓会事務局員

松浦 健二	高18回
田中 訓樹	高22回
須藤 篤	高26回
朽木 隆	高27回
大橋 良一	高27回
今関 達也	高28回
石田 正彦	高30回
神田 亮一	高32回
国分 聡	高33回

目々澤 光一	高36回
佐藤 富浩	高36回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
齋藤 実	高37回
大河内 孝志	高38回
本多 信弥	高40回
菅野 祐智	高44回
松井 暢彦	高53回

平成24年度 同窓会幹事

菅野 貴輝	1組
高橋 実愛	2組
石堂 優路	3組
渡邊 圭斗	4組

大原 啓	5組
佐藤 頌司	6組
高橋 郁成	7組
野崎 ゆづき	8組

事務局からのお知らせ

- 事務局では今後「梅苑会報」の内容を充実させたいと考えております。同窓会に関係するニュースや情報などがございましたら、下記の事務局までFAXか郵送でお知らせ下さい。
- お知り合いの方で「梅苑会報」が届いていない場合は、新しい住所を同封の同窓会員異動通知票に直接書き込んで郵送していただくか、またはFAXにて事務局までご連絡下さい。

〒960-8002 福島県福島市森合町5-72
 福島県立福島高等学校同窓会事務局 FAX024-535-2392

発行所：福島県立福島高等学校同窓会

960-8002 福島県福島市森合町5-72
 福島高校：024-535-2391
 梅苑会館：024-536-9511
 振替口座：仙台 23948

発行人：川崎真二

発行日：平成25年3月1日

印刷：(株)日進堂印刷所

[題字は故若林名誉会長]